

## フランスの自治体関係団体の見本市に出展

今年度も、クレアパリは主要事業の一つとして自治体関係団体の見本市、サロン・デ・メールに出展しました。この見本市の正式な名称は「Salon des Maires et des Collectivités Locales」と言い、直訳すると「市長<sup>1</sup>と地方自治体のサロン」となります。クレアパリはこのサロン・デ・メールに平成14年度（2002年度）から毎年出展しており、今回は9回目の出展となりました。

### （サロン・デ・メールの概要）

このサロン・デ・メールは、毎年11月に開催される全仏市長会（Association des Maires de France, AMF）の総会と併せて開催されます。今年は、11月23日から25日の3日間にわたり本見本市が開かれ、会場の広さは55,000㎡にもなります。全仏市長会は現職市長と名誉会員から構成され、会員数はおよそ36,000人に及び、約37,000あるフランスの基礎自治体のうちの97%の首長が加入している大規模な組織です。この全仏市長会の総会には会員になっている基礎自治体の首長や自治体幹部らが全国から集まり、要職にあるフランスの政治家もこの機会に招かれます。

サロン・デ・メールは、この全仏市長会総会に集まる首長や幹部が、自らの行政運営のために必要な情報を得る機会を提供するために開かれます。フランスの基礎自治体のうち約9割が人口2,000人未満の自治体であるため、こうした小規模自治体が日頃得られる情報には限りがあります。そこで、行政運営や施策展開に関係する公的機関や非営利団体、行政機関に最新の商品やサービスの提供を行う民間企業などが一堂に集まって、さまざまな関係機関や企業と効率的にコンタクトが取れるというところに、本見本市の意義があります。今年のサロン・デ・メールは、都市整備、環境/エネルギー、公的機関/公的サービス/金融をはじめとする9つの分野に分かれており、全部で850もの団体が出展しました。クレアパリは、今年も、正面にフランス上院、左斜めに内務省のブースがある、会場内でもフランスの自治体関係者が立ち寄りやすい場所にブースを構えました。フランス国内において日本の地方自治体の活動支援などクレアパリの活動を今後一層円滑に進めるため、広報と連携の強化及び新たな連携先となる団体の開拓を行いました。今年は57,328人（前年比3.5%増）の来場者があり、そのうちの約71%が地方自治体関係者でした。今年、当事務所のブースを訪問した人は約500名と、昨年度に比べて100人ほども増えました。

### （クレアパリブースでの活動）

クレアパリのブースでは、毎年、日本の伝統文化の紹介も兼ねつつ、リラックスした雰囲気の中でフランスの地方自治関係者と業務上のコンタクトや有益な情報交換ができるように、クレアパリ所長補佐による茶道のお点前を披露することを、おもてなしの軸としています。今回新たな取り組みとして、フランスで人気が高まりつつある日本茶をより多くの人に知ってもらうために、（財）世界緑茶協会作成の緑茶のパンフレットの配布や緑茶の提供も行い、来場客から好評をいただきました。

また、私たちの活動について関心を示した来場客には、クレアパリのパンフレットを渡しクレアパリ

---

<sup>1</sup> フランスの基礎自治体はコミューンと呼ばれ、日本のような市町村の区別がありません。ここでは基礎自治体の首長を意味する「maire」をわかりやすく「市長」と訳しました。

の業務の説明や広報を行ったほか、日本の観光情報を求めて訪れた来場客には JNTO の協力を得て日本全体及び地方都市の観光パンフレットを配布し、来場客からの質問に答えるなど日本の観光 PR も行いました。

このようにクレアパリのブースでは、クレアパリの活動の紹介や、業務上の情報交換やコンタクトづくりという活動のほか、緑茶や日本の観光 PR などを行うなど、多面的に活動を行いました。

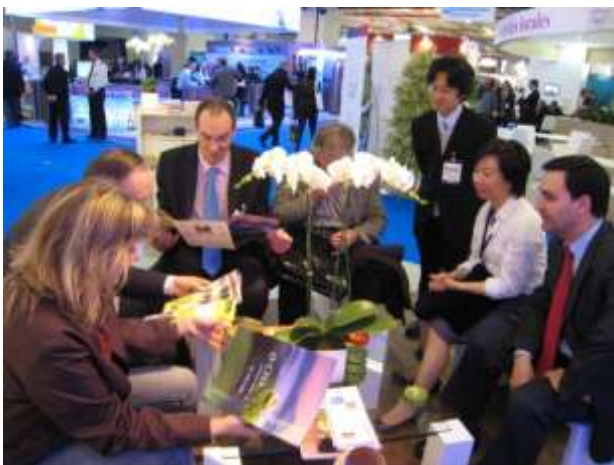
#### （木村クレア理事長訪問）

今回、サロン・デ・メール開催期間中、当協会の木村理事長が来仏しました。理事長は、クレアパリのブースで、今年 5 月に金沢市で開かれた日仏自治体交流会議でフランス側取りまとめ役として中心的な役割を果たしてきたナンシー市のベルルモン副市長と会談を行いました。この中で、日仏自治体交流会議におけるナンシー市のこれまでの尽力に対する謝意を伝えるとともに、平成 24 年にフランスで開催予定の日仏自治体交流会議におけるクレアとナンシー市との今後の協力関係を確認し合うことができました。

#### （所感）

昨年に比べてクレアパリのブースへの来場者が増え、クレアパリの活動をより多くの方に PR することができました。ブースの訪問者数の増加という数の変化だけでなく、今年はクレアパリの活動内容に関心を持って訪問する方の割合がとも増えた、という来場者の訪問動機の変化も感じることができました。これもクレアパリの 20 年に渡る地道な活動の成果と思われるます。この実感を糧として、クレアパリはフランスの地方自治関係団体と連携・協力を進めて、日仏間の交流活動をさらに深めていきたいと思ひます。

クレアパリ 安藤洋行（静岡県派遣）



緑茶パンフレットを使ってパントル全仏事務総長連合会会長（右端）らにお茶について説明するクレアパリ職員



ナンシー市ベルルモン副市長（右端）と会談する木村クレア理事長（左端）